



Works
2014-2021

加藤 クリム

ゆう建築設計の建築家

時空読本



南西からの外観

厳しい敷地制約の中で建築可能な 最大限のボリュームを確保

兵庫県神戸市での病院の建替の計画です。既存病院の東側隣地に第1期工事にて外来、病棟（91床）、手術部門、リハビリ等を整備。新建物に移転後、既存建物を解体、解体後の敷地に健診部門、有料老人ホーム（10室）、病棟（29床）を整備するものです。工期は3年にわたりました。

敷地は大通りに面していますが、北側は住居系の用途地域で高さ制限の規制が厳しいため、建物は階が上がるにつれて北側がセットバックしています。その結果、地上だけでは建築基準法上建築することが可能な床面積を建てることができませんでした。



北西からの外観。法規制により上階に行くにつれ建物がセットバックしている。



病棟廊下。階高が低いため出てくる梁型を間接照明として活用。

最大限のボリュームを

確保するための3つの方法

要求された諸機能を納めるために、以下に示す3つの方法によって敷地に対して最大限の床面積を計画しました。

1. 法的に採光が必要ではない諸室を地階に計画

法的に採光が必要ではない手術室を地下2階、リハビリ室を地下1階に設けることで地上部分だけでは使い切ることができない床面積を確保しています。また、地下は1期工事範囲だけとすることで工期の短縮、コストの低減に努めています。

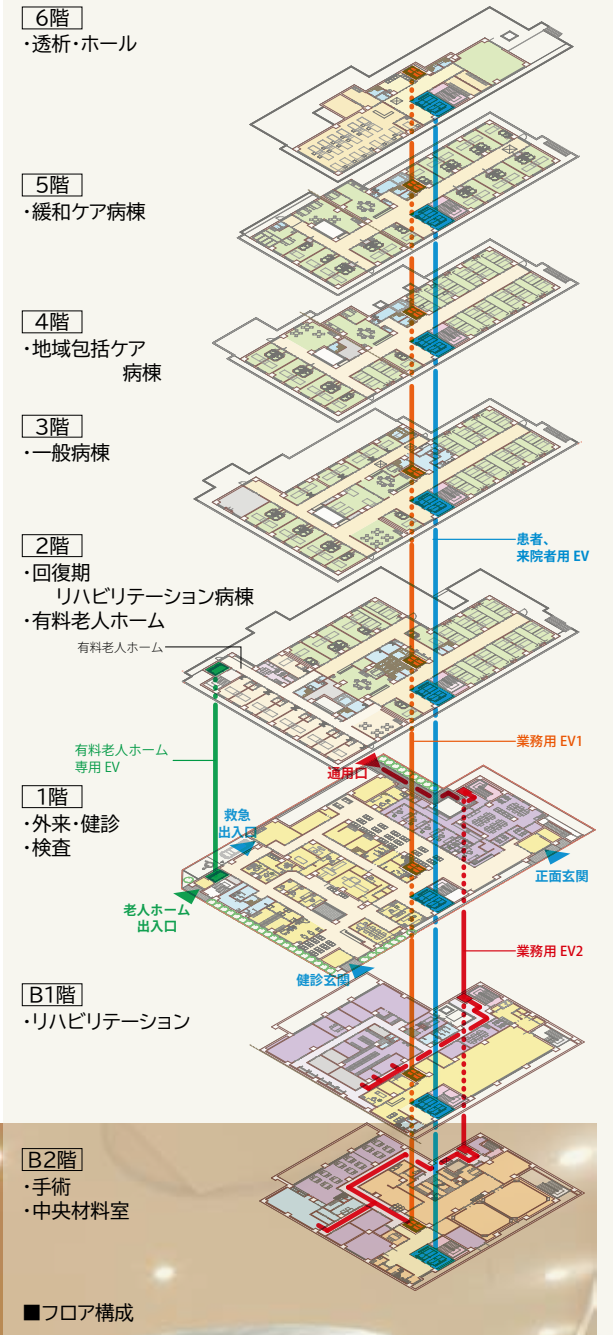
2. 階高を抑えて地上に+1フロア

階高を抑えることで通常であれば地上5階建てとなるところを6階建ての計画とし、最上階に透析室（20ベッド）とスタッフ用ホールを計画しました。

3. バリアフリー法の認定制度を活用し

容積率以上の床面積を確保

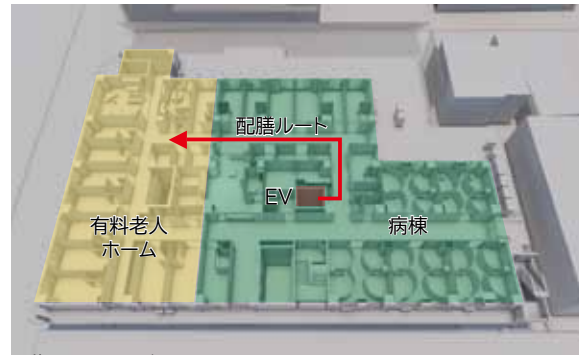
バリアフリー法の認定制度を活用することで、その敷地に建てられる最大の床面積の1割増しまで建てるができます。病院建物は医療法により求められる廊下幅が建築基準法のそれよりも大きいため、比較的容易に認定を取る事ができます。本計画では約500㎡の緩和を受けています。



地下1階リハビリ室。地下であることを感じさせないよう、内装デザイナーの提案により天井には空模様のクロスが採用された。

病院と有料老人ホームを併設

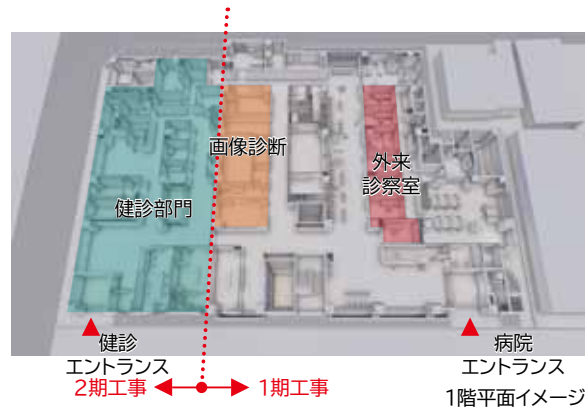
2階の2期工事範囲は有料老人ホームとなります。病院と有料老人ホームの合築に際しては、病院と有料老人ホームは原則、独立している必要があり、有料老人ホームのエントランスは北西角に別途設けています。行政協議の結果、有料老人ホームへの食事提供については病院厨房を利用し、2階病棟からの配膳ルートを確認することができました。



将来的な増床も考慮して、有料老人ホームの居室は病室と同仕様とし、廊下幅も医療法上必要な幅を確保することで、病院一有料老人ホームの廊下間の建具を撤去するだけで病棟として利用可能な計画としています。

外来と健診で画像診断を 共用する1階平面計画

1階は1期工事で外来部門を整備し、2期工事で健診部門を整備しました。画像診断部門は外来部門と健診部門の間に計画し、撮影室の出入口を両側に設けることで、どちらからも利用可能な計画としています。



病室の設備計画—維持管理に配慮した 空調方式と自然観気が可能な小窓の設置

病室の空調設備は個別空調方式とし、窓下のスペースに室外機を設けることで、維持管理が容易な計画としています。機器トラブルの際にも、その部屋の空調機器の更新だけで済みますので、他の病室への影響もありません。

換気設備は全熱交換器を設置することで、空調負荷の抑制をはかっています。また、中間期には屋外の空気を入院患者が自由に取り入れることができるように換気用の小窓を設けています。



a 4床室。b 4床室の窓下の空調屋外機設置スペース。神戸市では消防の指導によりバルコニーを四周回さなければならない。要求寸法を確保するため外壁をくぼませて室外機を配置。c,d 病室の換気窓。プッシュ式のラッチにより容易に開閉可能。



整形な建物形状で建設コストを抑える

兵庫県西脇市に建つ特別養護老人ホーム50床、ショートステイ10床、デイサービスの複合施設です。

建設コスト高騰の問題から、いかに建設コストを抑えるかが計画の当初からの課題でした。そこで、シンプルな長方形の平面に必要な機能を納め、前面道路からセットバックした配置としました。ただ単に長方形の建物に機能を詰め込むだけでは長方形の真ん中のあたりでは光も風も入りませんので、随所に中庭を設けることで、採光や通風を考慮した計画としています。

浴室は2つのユニットで介護用ユニットバスとADL浴のユニットバスを共有し、介護度の違いに応じてさまざまな入浴スタイルに対応できるように計画しました。また、脱衣室を浴室毎に設けるのではなく、1室をカーテンで区切るかたちをとっています。必要に応じて広い1室の脱衣室として利用する事も可能です。また、スタッフ同士が声をかけ合って助け合いながら入浴介助する事ができます。



a 建物中央の中庭。両サイドは居室。**b** ユニットの浴室。ひとつの大きな脱衣室に面して縦置き浴槽の浴室とADL浴を設けた。
c 共同生活室。光庭に面した明るい雰囲気。



地域に開かれたカフェと職員寮を併設した サービス付き高齢者向け住宅

兵庫県西脇市に社会医療法人社団正峰会の大山記念病院を中心に、同法人グループが運営する子供からお年寄りのための施設が建ち並び、さながらコンパクトタウンを形成しているエリアがあります。

本計画はその「まち」の中に地域包括ケアの一環として、サービス付き高齢者向け住宅60戸を計画するものです。1階には近くの病院で働くスタッフのための職員寮、地域の方々も利用できるカフェが入っています。

既存施設である1号館は医療ニーズが高い方の入居を、2号館は介護が必要な方を対象にしているのに対して、3号館は比較的軽度の要介護者を対象としていますが、浴室については2024サイズの介護向けユニットバスの他に座位での入浴に対応した機械浴を、3階には三方介助がしやすい縦置き浴槽を設けたものをそれぞれ設けました。3種類の浴槽を設けることで、入居者の身体的状況に幅広く対応でき、介護者、介助者の入浴介助の労力軽減にも配慮しています。



a 3階 縦置き浴槽の介護ユニットバス。**b** 2024サイズの介護ユニットバス。各階2か所設置。**c** 2階 座位浴対応の機械浴室



居室内トイレ
L型の建具を採用し、要介護度が上がっても利用可能



2階食堂 高齢者施設らしくないインテリアを要望されたことから、様々な色やテクスチャのクロスを採用

社会福祉法人若竹福祉会
地域包括ケア複合施設 YMBT



某病院敷地有効活用フロポーザル
地域包括ケア複合施設の提案



団地内に建つ地域包括ケア複合施設

京都府八幡市の UR 男山団地内に建つ地域包括ケアのための複合施設です。1 階にはカフェや多目的ホールがあり、地域の方々が気軽に立ち寄り、利用することができます。

2 階は京都府高齢者あんしんサポートハウスで比較的自立した生活を送れる方々が暮らしています。3、4階は地域密着型の特別養護老人ホーム 29 床となります。

建物を団地のスケール感に合わせてコンパクトに見えるように、外壁を細かく塗り分け、それに合わせてバルコニーや手すりの仕様も変えています。

共同生活室は建物の中央に設けた光庭に面して計画しました。居室からは団地の豊かな緑を楽しめる計画としました。



a 居室。トイレの扉は引き戸+開き戸のL型建具とし、ベッドサイドトイレとしても利用可能。b エントランスホール。右側の建具の奥は多目的ホール。移動間仕切りとなっており、エントランスホールと一体的に利用することも可能。c 特別養護老人ホームの共同生活室。光庭から採光、通風を確保可能な計画としている。



中庭をコの字型に囲う建物配置を提案

某公立病院の建替えに伴い、病院敷地の一部を活用し、地域包括ケアの複合施設の提案が求められました。

薬局、ホスピス、レストラン、訪問診療クリニック、保育所の複合施設が地域に開かれた広場を囲むプランを提案しました。



薬局

レストラン

訪問診療
クリニック

ホスピス

保育所

医療福祉施設のプロフェッショナルが 利用者の思いを具現化する。

ゆう建築設計は医療福祉の分野で、建物を利用する利用者や介護・支援・看護をする人たちに役立つ工夫を行い、医療福祉分野が持つ社会的役割に寄与することを会社が存在する意味としています。

ゆう建築設計として医療福祉の分野で独自の多くのノウハウを開発し、それらのノウハウは積極的に開示しています。特に建築からあまり検討が進んでいない分野について取り組んでいます。医療分野では「透析」「精神科」「中規模病院」福祉分野では「障害者」「高齢者」です。

建築から役立つことは、建物を建てるのが前提となります。依頼をいただいた各案件にはゆう建築設計の建築家が担当者となります。ゆう建築設計が持つ深いノウハウは担当者に共有されていますが、建物を具体的に決めるのは各担当建築家の役割となります。

そのためゆう建築設計の各建築家はそれぞれの建築に立ち向かう思い、建築の技術などを各自が高いレベルに保ち続ける強い思いを持っています。形への感性は皆違います。ゆう設計の建築家は利用者の思い、建築への思いをそれぞれの感性の中で実際に建つ建物に具体化していきます。

この時空読本ではそのような建築家の一人を紹介します。

株式会社ゆう建築設計 代表取締役 砂山憲一

人に愛される建築を

建築は様々な人々の思いから形作られると考えています。

そして、様々な思いを受け入れることができる建築は愛され、長い間使い続けてもらえるのではないかと考えています。

人々の思いと一口に言っても、事業主の思い、スタッフの思い、利用者の思い、など様々です。言葉になって直接私たちに伝えられる思いもあれば、言葉にしづらい、言葉にできない思いというの也被えられます。更には建物は一度建ってしまうと少なくとも数十年は建ち続けるので、未だ現れることがないけれども将来現れるであろう思いというの也被えられます。

そういった思いを受け止め、くみ取り、時には未来の思いに思いを馳せながら、議論を重ねることで、長い間愛され、使い続けられる建築をつくりたいと考えています。

株式会社ゆう建築設計 加藤 クリム

